

笑ってごらん

第 512 号 H. 27. 5. 12 発行

～今日のことば～

自分で夢のある生き方が出来ない人が

他人の夢を笑う

(アメリカの企業経営者：H.J.ブラウン Jr.)



◇◆なんという巡り合わせだろうか…。第 512 号の発行が 5 月 12 日に重なった…。「だからどうした！」との声も聞こえてきそうであるが、こんなどうでもいいことが嬉しかったりするもの。いや、ただそれだけ…。 ◇◆5 月 12 日は『看護の日』でもある。看護の礎を築いたナイチンゲールの誕生日。看護学科の皆さんはナイチンゲールの功績に思いをはせながら、自分力向上に努力・邁進して欲しい。本校は全国一の定員規模で看護師養成を行っている。その本校看護学科基礎課程 2 年生が 1 日、戴帽を終えた。熱の入った準備・練習の成果が如実に表れた素晴らしい戴帽式であった。本当におめでとう。いよいよ月末から臨地実習となる。患者様を担当するという事は緊張の連続であろうと思うが、しっかり準備して頑張るって欲しい。 ◇◆2～6 日はゴールデンウィークであった。大半の寮生は帰省し、家族と共にゆっくり過ごしたことであろう。一方、補習・遠征・合宿と様々な活動に精出した人たちも多くいた。中でも、吹上浜砂の祭典ボランティアに参加した 53 名は素晴らしい活躍を見せてくれた。入退場口・場内案内・販売・場内整理・補修等様々な業務をテキパキとこなす中で、来場されたお客様方と「台本の無い会話」を重ねることにより、自信・度胸を身に付けたことと思う。肉体的にも精神的にも疲れたことだろうが、数多くの経験は必ずや今後の生活にプラスに働くことは間違いない。積極的な体験活動で自分力を向上させていこう。

◇◆5 月 3 日、南さつま市(36, 154 人)と北海道旭川市(345, 917 人)は姉妹都市盟約の締結を行った。以前から相互に砂像と雪像を造り合うことを通じて交流を深めてきた。このことは併せて災害時防災相互協力協定も含んでおり、災害発生の際は両市が相互に救助及び物資補給の面等で支え合う関係の確立を意味する。



感謝道

◇◆5 月 8 日(金)の南日本新聞、一つの記事に目が止まった。『コーヒー、緑茶「病死の危険減る」 がん研など 9 万人追跡」という見出し。記事によれば、「コーヒーを 1 日 3～4 杯飲む人は、ほとんど飲まない人に比べて心臓や脳血管、呼吸器の病気で死亡する危険性が 4 割ほど減るとの研究結果を、国立がんセンターや東京大などの研究チームが 7 日、公表した。全ての死亡の危険性で比較すると 24%減だった。(中略) コーヒーを飲む量が多いほど死亡の危険性は減り、「1 日 3～4 杯」と答えた人は、狭心症や心筋梗塞などの心臓病で死ぬ危険性が「ほとんど飲まない」とした人に比べて 36%低かった。チームはコーヒーに含まれ血糖値や血圧を調整するクロロゲン酸や、血管の健康を保つカフェインの効果が考えられるとしている。緑茶も 1 日 5 杯以上飲む男性は、ほとんど飲まない男性に比べて脳血管病で死ぬ危険性が 24%減、呼吸器病で 45%減だった。女性は心臓病で死ぬ危険性が 37%減った」。 ◆個人的に喜んだ。私は若い頃から(今でも気持ちだけは若いつもりでいる) コーヒー大好き人間である。校長室にも豆とミルクを常備し、毎日飲んでいるので、入室した生徒が「あっ、コーヒーのいい匂い…」とつぶやくことがある。ただ、私は高校 1 年生の頃からコーヒー中毒であり、ブラックコーヒーを 1 日 11 杯飲んでいて胃炎・胆嚢炎・十二指腸炎を併発し、1 ヶ月間ろくに食事ができず、毎日点滴通院した経験があるくらい。さすがに飲み過ぎだった。反省しきりである。それからは自重し、1 日最高 3～4 杯にしている。「過ぎたるは及ばざるがごとし」の言葉通りほどほどがいいようだ。